



倒的な数の発生が予想される避難者の課題などを伺った。

## (2) プログラム 2

プログラム 2では、発災直後から 1 か月までの状況を参加者同士で共有することを目的に実施。参加者に当日までに「事前準備シート」を送付し、訓練当日は事前準備シートをグループ内で共有した。グループは都内社協・ボランティアセンター、NPO・NGO、都外支援団体が分かれる形で設定し、さまざまな団体の災害時の動きを共有する場とした。

## (3) プログラム 3

プログラム 3からは城東ブロック、城北ブロック、城西ブロック、都外 1、都外 2、東京都災害ボランティアセンターの 6 つのグループに分かれ、下記 3 つのワークと模擬情報共有会議を実施した。

【ワーク①】ワーク①では、首都直下地震 1 か月後のシナリオを読み込み「シナリオに書かれていない課題」を出しあう訓練とした。避難者の生活状況やニーズについてのイメージを膨らませた。



【ワーク②】ワーク②では防災ゲーム「クロスロード」を参考に作成したワークショップ「+ONE（プラスワン）」を実施した。ここでも、ワーク①につづいて避難生活のイメージを膨らませるとともに、避難生活上の課題から広域で対応する支援方法を検討した。

【ワーク③】ワーク③では 1 か月後の避難生活において、各団体が実施できる支援プログラムの検討を行った。都内団体は支援プログラムの検討と今後、避難生活で新たに発生すると思われる課題について、都外団体は支援先地域名と支援プログラムを検討した。

【情報共有会議】各グループから 2 人に参加してもらい、模擬的に情報共有会議を開催した。東京都災害 VC が進行、各グループの状況報告とともに城東・城北・城西ブロック以外の城南・中央ブロック、多摩地区の被害情報・支援情報の共有を行った。また、各地域で出された各種テーマの課題（例えば、要援護者やペットの問題）について、東京都災害ボランティアセンターと地域でどのように役割分担を行っていくか模擬会議を通して検討を行った。

## (4) 見学プログラム

見学者プログラムはオープンドア形式で、見学者はプレイヤーが実施する訓練内容を見るか、下記の講義・意見交換に参加するか自由を選べる方式とした。

### ◆見学プログラムにおける講義・意見交換の内容

- 1) 災害時の NPO・NGO の活動について（講義 20 分）
- 2) 過去の災害時における行政と NPO・NGO の連携事例（講義 20 分）
- 3) 大規模災害時の広域連携について（講義 30 分）
- 4) 過去の災害時における企業と NPO・NGO の連携事例（講義 20 分）
- 5) 見学者意見交換タイム（意見交換 40 分）

## 8 成果と課題

### (1) Keep=良かった点、継続する点

- ・昨年度、参加がなかった区市町村行政の参加が多く見られたことが良かった。
- ・プログラム2では、事前課題があったことで、区の概要等を調べ直すことができるなど参加者が前もって考えてから訓練に参加することができた。
- ・見学プログラムについては、参加者が訓練全体を自由に見ることのできるオープンドア形式が良かったと。講義の時間が20分という設定も出入りしやすく良かった。
- ・東京都災害ボランティアセンターの情報共有会議では、区市町村ボランティアセンターやNPO・NGO等が東京都域のセンター機能や役割について、考えることができた。
- ・訓練全体を通して、ブロック域を設定したことにより、参加者がブロックごとに考える場につながり、都外の方からのアドバイスで検討を深めることができた。また、地域、都外とが発災時の対応を具体的に考えられる機会になった。
- ・訓練の企画検討にあたっては、社協や行政、NPOやNGOなどのさまざまな団体によるワーキング・グループを計7回実施でき、さまざまな視点で検討を重ねることができた。

### (2) Problem=課題点、見直すべき点

- ・訓練全体の時間配分について全体的に時間が足りず、深く検討することができない場面も見られた。
- ・訓練への参加者については、NPO・NGOと企業の参加者が少なかった。
- ・一部、ボランティアセンターへのNPO・NGOの関わり方が、災害ボランティアセンターの運営支援という立場となり、NPO・NGOとしての意見を出す場にならなかった場面が見られた。ワークショップの中での各団体の立ち位置をはっきりさせるべきだった。
- ・東京都災害VCの情報共有会議では、東京都災害VCのシマで行った意見交換の内容をうまく伝えることができなかった。また、区市町村VCやNPO・NGO等に対して、都域全体の状況を伝えることや今後の見通し、発生する課題などを伝えることができなかった。東京都災害VCの幹事団体の中でも情報共有会議の意味や位置付けについてしっかりと共有できていなかった。
- ・東京都災害VCで取り扱う情報量が多いので、訓練を行う際は具体的に手を動かせる人をつけて情報を整理しないと対応が難しいことが分かった。

### (3) Try=改善点、新しく取り組めると良い点

- ・訓練に評価者を配置したことについては良かったが、評価者にどういったポイントで評価してもらいたいかを伝えきれていなかったなので、次回からは打ち合わせ等をしっかり設ける。
- ・訓練のワーク中に重要な議論がされていたので、ワークの記録をしっかりと取れるようにし、その内容を踏まえ、東京都災害ボランティアセンターの機能に反映させたり、次の訓練に活かしていくことが必要。
- ・東京都災害VCの情報共有会議は、会議に向けての意見交換を行う時間をしっかりと設ける。
- ・見学者プログラムについては、ツアー的に回るプログラムを作っても良かったかもしれない。
- ・また、見学者プログラムでは、プレイヤーの訓練を中断してでも見学者に訓練の状況を説明する機会があっても良かったかもしれない。また、見学者とプレイヤーの意見交換の場を設けることも検討してはどうか。

## 9 アンケート結果

### プレイヤー アンケート結果

#### ○「東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議について」…5段階評価で平均 4.1

(主な意見)

- ・改めて確認させていただきました
- ・推進会議の中身について、理解することができた。
- ・「これから」の動きをもっと聞きたかった。”
- ・平時からのネットワークの大切さを改めて感じた。
- ・時間が少なく、もう少し的を絞って説明をしてほしかった。

#### ○「首都直下地震における被害想定について」…5段階評価で 4.3

(主な意見)

- ・特に被害想定の出し方や避難者数の想定の考え方など、楽しく聞かせていただきました。また、想定を最悪の値にすることによって防災の取り組みを減退させる風潮になっているのには、危険を感じました。
- ・被害想定は、目にすることがあったが、どのようにして出た数なのか、理解することができた。想定の意味が理解できた。
- ・参考になる話だったので、もう少し時間が欲しかった。

#### ○「事前準備シートをもとにしたワークショップ」…5段階評価で 3.9

- ・立場の違う人達がいたので、色々な視点で見ることができた。
- ・具体的な項目として、できる事、支援してほしい事を出した方が良かったのでは？
- ・様々な支援団体の災害時の動きがイメージできた。
- ・時間が短く、深めたり確認するに至らなかった。
- ・定量的情報は見やすい表にだとよかった。1W、2W、3Wの軸の違いのイメージが少し短かったかも。

#### ○「シナリオに書かれていない課題の把握」…5段階評価で 4.1

(主な意見)

- ・記入されていない情報を想像するのは勉強になりました。
- ・グループで行うことで、自分が気付かなかった課題を知ることができた。
- ・とても良かった。参加者の得意とするジャンルならではの意見。
- ・シナリオに書かれていた課題を例示で表の一部に落とし込んでいたら意見が出やすかったかと思います。個別具体的な課題と、全体共通の課題の区別を意識できるともっと多様な意見が出たと思います。が、時間不足ですよ。

#### ○「避難所における状況判断(クロスロード風ワークショップ +ONE)」…5段階評価で 3.9

(主な意見)

- ・新しい対応方法をグループで考えることで、それぞれの立場の方の意見が聞けて、とても新鮮であった。
- ・グループメンバーで意見が違うこと、短時間での決定が求められることが、災害 VC と似ていると思った。
- ・狙いが分かりにくかった。
- ・一問一問に欠ける時間が短すぎましたね。少々残念。
- ・時間が少なかったが、ワークショップの内容は考えさせられるものだった。

#### ○避難生活における支援プログラムの検討(都内グループは今後の課題と支援方針の検討を含む) …5段階評価で 4

(主な意見)

- ・ブロックで起こりそうな課題に対してプログラムを考えていく作業は自分の地域に落とし込めるので、とても参考になった。
- ・各区、城西ブロックで何ができるかまで話せたら良かった。意見出しだけで終わってもったいない。

- ・大勢が対象のプログラムと少数が対象のプログラムを意識できる働きかけがあると良かったと思います。プログラムを考える際、「〇〇の支援が欲しい」というヘルプの出し方の訓練も重要なあつと。

#### ○情報共有会議…5段階評価で3.7

(主な意見)

- ・どのようにして共有がはかれるか理解できた。
- ・イマイチ、この会議がどういう役割を担うのかがスッと入ってこなかった。情報共有して終わりなのか？情報共有した上でその課題を何とかしようという会議なのか？
- ・情報を共有できたが、テーマを明確にした方が、意見がたくさん出るのでは？
- ・改めて、平時からこのような会議を関係機関と定期的に行っていく必要性を感じた。
- ・発表会になってしまったのが残念。ブロックを超えた連携やつながりを促すことができると、会議の価値が上がると思います。

#### ○訓練全体での意見

(主な意見)

- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。次回もぜひ参加したいと思います。
- ・内容が盛り沢山なので、もう少し時間をかけて、掘り下げて協議をすることができれば、より良かった。
- ・関ブロにおいても首都直下を想定して考える必要がある。
- ・もう少し一つ一つの課題に考える時間があるといいと思いました。お疲れさまでした。
- ・午後は特に時間がタイトでついて行くだけで精一杯でした。
- ・休憩時間がなさすぎた。参加者同士コミュニケーションする時間が取れなかった。

#### 見学者アンケート結果

#### ○「東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議について」…5段階評価で平均4.0

(主な意見)

- ・現状の確認ができた。会議で確認された内容をネットワークの隅々にまで伝えることが重要か、今後に大きな期待を持つ。
- ・平時からの取組みの大切さの根拠を明快に教えていただきました。
- ・失礼ながら、不勉強なため推進会議の成り立ちや経緯をしらなかつたので、現状を把握する上でとても参考になりました。端的でわかり易い説明をありがとうございました。
- ・成果物を知りたかつた。

#### ○「首都直下地震における被害想定について」…5段階評価で4.0

(主な意見)

- ・具体的な調査について、研究者の目線で話されていたのがおもしろく、興味深かつた。
- ・東京で震源をそれぞれ設定した場合の被害の違いを知ることができました。
- ・想定は、分からないことだらけという現実面をざっくばらんに教えていただき、感謝でした。
- ・結論をとばして話を終わりにしたのはよくなかつた（事務局の質問で最終的には説明してもらえたが）
- ・時間が短かつた。ぶっちゃけの話も聞けて良かつた。
- ・シミュレーションの実際のところや、課題など、興味深いことを知ることができ、とても為になりました。できれば半日ほどの講義をして、もっとたくさん教えて頂きたいと思いました。楽しかつたです。

#### ○「これだけは知っておきたい！災害ボランティア関係用語集の説明」について…5段階評価で4.0

(主な意見)

- ・団体名などのリストもあり、よかつた。
- ・法律や略語等の内容がまとめられていて、内容が把握しやすく、また、復習にもなりました。



耳にはしているが、よく知らない用語もいくつかあり、勉強になった。

- ・ 第一次交通規制について、ぼんやりと知ってはいましたが、支援する立場として、非常に工夫を迫られるものだというをよく認識できました。
- ・ 資料がたいへんよくまとまっているので、時間の限られる中でも参考にすることができ、よかったです。
- ・ 略語が説明内で多く困惑したが、用語集のおかげで見学の際もより具体的に動きがイメージできた。
- ・ 前職が福祉部門でしたが知識不足であったこと、様々な団体が様々な活動を行っていることが知れた。

#### ○「災害時における NGO/NPO の活動」について…5 段階評価で 4.0

(主な意見)

- ・ なんとなくしか知らなかったため、わかりやすかった。
- ・ NPO と NGO の活動の違いを理解しやすかったです。また、取り上げられる情報量によって対応が変わってくることは課題であると思われます。
- ・ 連携の課題や今の新しい動きを知ることができた。

#### ○「災害時における官民連携の事例」について…5 段階評価で 4.0

(主な意見)

- ・ 3.11 東日本大震災以降、被災時にどのような連携を行っていたかが理解できました。
- ・ それぞれの組織間の連絡調整会議の重要性が理解できた。
- ・ これまでに実際に存在した事例それぞれが、その時限りのものであり、参考になるが、万能のマニュアルにはならないということは学ぶ事ができました。
- ・ 実際には、どのようにすればよいのか分からなくて・・・。
- ・ 災害ボランティアセンターの話が入っていなかった。NGO、NPO の窓口としてふれて当然ではないか。
- ・ 宮城で行なえて、他県でできない理由を伺うにつけ、平時からのつながりが不可欠であると思いました。

#### ○「大規模災害時におけるボランティア活動の広域連携」について…5 段階評価で 3.8

(主な意見)

- ・ ネットワークづくりに参考になった。
- ・ 李さんや横田さんなど貴重な話が聞けた。

#### ○「過去の災害時の企業と NGO/NPO の連携事例」について…5 段階評価で 3.8

(主な意見)

- ・ 企業の協力する理由など分かってよかった。
- ・ 企業の本業を活かした支援活動と、NPO・NGO がどのように関わっているかを知ることができました。
- ・ 情報の整理がよくなされていた。具体例もありよかった。
- ・ 対企業に対する思考が向いていなかったのが勉強になった。

#### ○「見学者意見交換タイム」について…5 段階評価で 3.9

(主な意見)

- ・ WS 的なカタチが唯一あったのしかった。
- ・ やはり連携することは重要だという意見が多く、似たような意見を持っている方が多かったように思いましたが、求める資質や能力は各々異なっており、様々な能力が求められるということを感じました。
- ・ 各所ですで行われている連携について、その取組みを具体的に知るができる機会になりました。
- ・ 所属団体が異なる人びとの意見が聞けて良かったです。皆様のプロフェッショナリズムを感じました。

#### ○「情報共有会議見学タイム」について…5 段階評価で 3.7

- ・ 誰がどこではなしているのか分かりにくかった。
- ・ 情報共有の必要性和多方からの意見が出るこの意味を感じられた。
- ・ 各グループから出た意見を並べただけで物足りなかった。次の議論のタネになりそうな意見を司会者が

拾い、最後に提示すべきではないか。

- ・広域の取り組みのイメージが付き、自分のエリアの活動のイメージができた。
- ・広域的な視点での課題など、普段考えが及ばないところでの議論が聞けて大変参考になりました。(次回、まとめの時間を少し短くし、プログラム3のワーク①や②にされたほうが良いのかもしれませんが)
- ・前提として何の情報が共有されて議論されていたのかがつかみにくかった。
- ・オーディエンスを気にせず、会議(シミュレーション)を進めてほしかった。そのため、情報共有会議がどんなものかイメージもできなかった。
- ・要配慮者への対応という意味は、外国人、高齢者、障害者などの対応が参考になった。また都外との支援場所の話は参考になった。
- ・共有会議の難しさが伝わってきました。

### ○「質疑応答タイム」について…5段階評価で3.3

(主な意見なし)

### ○訓練全体での意見

- ・見学参加であったが、プレイヤーチームの時間をもっと見れると良かった。(自分で選んだけど)見学者向けのプログラムも魅力的なものも多く、午後はプレイヤーの見学に行ったが、見学者向けの話も聞きたかったという思いもあります。
- ・フィッシュ&ボール方式(プレイヤーを見学者が見る)で議論後、見学者の意見もフィードバックし、次のステップへすすむのもありだったのかもしれない。
- ・見学者にも、災害対応について考えるきっかけや話し合う時間が設けられていたので、ためになった。
- ・難しくて頭がついていかなかった。
- ・災害ボランティアセンターを運営する側として、その話題にほとんどふれられない訓練だったことに疑問を持った。見学者の意見交換会で話したNGO、NPOの人達は、災害ボランティアセンターについて全く知りませんでした。
- ・①丸一日の訓練は参加者が限られる。目的を絞って訓練プログラムのさらなる工夫を。  
②次回は立川あたりで開催してほしい。  
③見学者にも質疑応答の機会を設けてほしい。
- ・困難な人への支援という点が何度か強調されたことが心に残った。情報共有タイムに出ていた、セクシュアルマイノリティへの支援(のニーズ)をもっと具体的にどんな話が出ていたのか知りたかった。
- ・自分の関わる地域(多摩地域)で取り組んでみたいと思いました。
- ・行政と都ボラセンの連携についてはあまり意見がなかったように思う。受入する母体として区との連携は重要と感ずるので、来年以降の訓練にいかしていただければと思います。
- ・行政として参加しました。本日はありがとうございました。皆さんがものすごく災害対応について具体的に考えられていることに対して、自分もそして組織全体ももっと防災対策を進めていかなければと思いました。非常に刺激になりました。
- ・社協内部でまだ「連携」を考える所まで至っていないので、たいへん参考になりました。
- ・WGメンバーへの共有会議の意味、目的、役割についての意識づけが、もう少し必要かと思いました。改めて、対応を常に考えていかななくては…と思いました。ありがとうございました。